

INSPIRE No.17

イベント

5月28日・29日

第3回ギフトッド教育カンファレンス
2016

@ スクエア荏原

申し込み：jag2016.peatix.com

お問い合わせ

office@jagifted.org

日本ギフトッド協会事務局

8月3日から8月7日まで

夏季限定劇団員（サマーキャンパー）募集です。

定員：先着10名

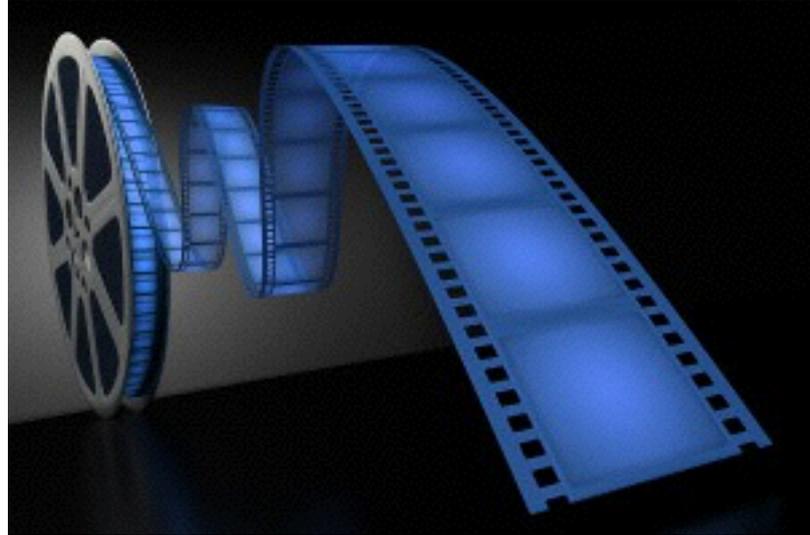
年齢：8歳から15歳まで

期間：8月3日から8月7日

活動場所：東京近辺

参加費用：95,000円

詳細はoffice@jagifted.org サマーキャンプ事務局までお問い合わせくださいませ。



先日、生徒たちがアメリカのギフトッド校を訪れ、そして、撮ってきた映像を編集した。ダイレクトシネマという手法に沿って、それぞれの映像を編集した。ダイレクトシネマとは1960年代に米国で始まったドキュメンタリー映画の一形式。撮影と同時に録音し、ナレーションを入れず、事実をそのまま伝えることを目指す。

ダイレクトシネマのお約束

1. 被写体に関しては事前リサーチしない。
2. 打ち合わせはない
3. 台本なし
4. 一人で行う
5. 必要ないと思ってもカメラを回す
6. 撮影は広く浅くではなく、狭く深くを心がける
7. 製作中はテーマを設定しない
8. 映像を何度も観察しながら興味深い場面を選んで構築する
9. 編集しながら、自分のテーマや視点を見つける
10. ナレーション、撮影テロップはなるべく使わない
11. 観客が十分に映像や音を観察でき、その場に居合わせたかのような臨場感

ダイレクトシネマという手法で撮る時のヒント

世界を虚心坦懐で見る。世界をそのまま見る。己の世界感を破壊していく。そこから何が見えてくるのだろうか。できあがったドキュメンタリー映画は「ガイドなしの旅」音楽もナレーションもなし。能動的に目の前に広がる世界をそれぞれが感じ、解釈し、考えながら体験しなくてはならない。

ダイレクトシネマ＝「観察映画」よく見て、よく見た結果を映画にする。「観察映画」を見る方もよく見て、よく感じる。

私が今作成しているドキュメンタリー映像は音楽もナレーションも入っている。「Awakening Excellence」という言葉はギフトッド教育においてスティーブ校長がずっと使っていた言葉。そして、私が10年間、ギフトッドの子供たちを教えた集大成で、たどり着いた言葉が「Awakening Excellence」だった。「Awakening Excellence」とは「素晴らしさを呼び起こす」それか、「素晴らしさの覚醒」このAwakening Excellenceは理解するものではなく、体験するもの。その体験するものをカンファレンスで約40分のドキュメンタリーとして、伝えなくてはならない。ギフトッドか否かは関係なく、子供たちが自分の魅力を開拓していく大きなヒントが映像と写真で捉えられている。

「抽象的概念」とは？

目に見えず触れることも出来ず五感や数値化出来ない、直接的に認識出来ないもので、具体的でない、意識、心の中、頭の中で作られたものを抽象的といい、その言葉の意味内容を概念という。

ギフトッドは、抽象的概念が理解できるらしいが、たとえばどんな事？
中学3年の会報誌に載せるための生徒一言集「自分のちょっとした自慢は？」

Aくん「100m12秒台で走れる」

Bさん「タレントの○○にちょい似ていると言われる」

Cくん「いところがハーフ」

Dさん「目が大きい」

Eくん「サッカーが得意」

Fさん「嵐のサインを持っている」

Gくん「毎年ハワイへ家族旅行」

Hさん「変顔が上手い」

……。実にくだらない。学校は何をお望みか？みんなの「へえ～」や笑いを取りたかったのか？小学生じゃあるまいし、書かせる意味を見出せない。

Iくん「適応力！」

Iくーん！大人じゃん！地味に目立つよ！なんでこんなこと書いたの？

Iくん「イヤ～、オレには自慢できることなんてないから、この程度しか……。」

まさに抽象的概念が理解できる！彼は一体何者？あっ、我が子でした（汗）。

M.I



「あなたとギフトッドの子供はコミュニティーに属していますか。」

Feelosopher's Path Japanに入会して活動した2年間（息子の意志あって現在は休会中ではありますが）一期生なもんだから全てが「初めて」で聞く先輩ママもいない状態だった。聴く相手はいつも「おっけいです」「大丈夫です」「何が心配？」と笑顔で答えるのみ。藁をも掴む思いだった。ADHDの傾向、とだけ言われ目の前にいる息子が解るようで解らない就学直後から二人目の子だけど一人目にはなかった試練をガンガン持ち帰ってくるようになりフルタイムの仕事と家庭とで私の脳内は大荒れだった。

他人に対して、大人に対して壁を作り相手の顔を見ない子になっていた息子だった。始めて逢った赤いTシャツの男性の顔をちらちらと見ながらも壁を作らなかった空間だった。異星人のような息子の話をうんうんと頷きながら聞いてくれるママたちに逢った。お互いの子供の話、相談、情報交換が出来る週1回の数時間がとても楽しみだった。

少しずつ息子が見えてきて医師の見解が全てではないこと、学校側の対応が息子に合っていないことが見えてきた。何しろ一期生、全て手探り状態のママ・コミュニティーだったと思う。

FPは空気のような空間

見えなくてなんにもない様だけどなくなると苦しくなる。

なくてはならない空間。

学校では学べないことをたくさん経験してきた。

FPに出会わなければあのまま親子で引きこもりになっていた。

行動範囲も自宅周辺のみ。

交流も絶ち、孤立してはたはず。

それまでは多分私も過干渉だった。

カーリングママ？ブルドーザーママ？だったかな。

初めて都内から公共機関使って帰る

初めて都内の集合場所へひとりで出かける

初めて母と離れて夜を過ごす

初めてひとりで飛行機で国外へ行く

初めて言葉の通じない世界で過ごす

親子で多くの冒険をしてきた

いつの間にか二期生・三期生が加入していて

ママたちの話に耳を傾けると数年前の自分がそこにいることに気が付く

明らかに親子で成長している自分たちに気が付く

塾へ通うより大事なものがあることを改めて知る

ありがとうFeelosopher's Path Japan

M.H



「日本ではなぜ頭の良い人があまり好かれないのか？」

日本では頭の良い人があまり好かれていないのではと感じます。頭が良い人はそうでない人を怖れさせ、劣等感を感じさせるからかもしれません。

幕末の頭の良い人と言えば、吉田松陰、佐久間象山、横井小楠ですが、彼らは処刑されたり、暗殺されたりしています。彼等の考えは他の多くの武士に理解されず、その考えの奥深さは相手を怖れさせ、劣等感を強く与えたのでしょう。しかし、それだけでは彼等が殺されなければならないほどの理由にはなりません。これは私の勝手な仮説です。

彼らが強く信奉した儒学の根本は、親子愛を基にした愛つまり「仁」の思想であり、それは私も賛成ですが、欠点もあります。その一つが「君子と小人」という考えです。「仁」という徳を持っている人は「君子」で、徳のない人を「小人」と見下します。先の三人は自分の考えを理解できない武士を「小人」として見下していたところが多少なりともあったのではないのでしょうか。だからこそ他の武士から反感を買ったのかもしれませんが。

一方アメリカでは、giftedの人が尊重されている傾向があります。私の勝手な思い込みですが、アメリカ人はヒーローが好きです。もしかするとgiftedも身近なヒーローというイメージがあるのではないのでしょうか。ヒーローに繋がるgiftedのイメージとは、「人を見下さず、人のために働く人」なのでしょう。

今でも日本では「頭の良い人は他の人を見下している」というイメージがまだ残っています。そのことが日本でのgifted教育を遅らせている一因になっているのかもしれませんが。松陰達も親や主君だけでなく、「仁」の心を「小人」の人たちにも向けていれば、殺されずに済み、今の日本もまた違ったものになっていたのかもしれませんが。

世の中は頭の良い人も、そうでない人もいて、それぞれがそれぞれの役割をこなし、世の中が回っている訳です。だからこそ、頭の良い人もそうでない人もお互いを見下したり、怖がったりせずに、互いを尊重し合える世の中になって欲しいものです。

すくすくクリニック 新井



日本ギフトッド協会が主催する初めてのギフトッドサマーキャンプのお知らせです。
そのタイトルは「旅する人形劇団~夏季限定」！！！！

ギフトッド教育を受けたアメリカ大学生のブリアーンさんが企画。今はコロンビア大学で自分の情熱に猛進中。一昨年、来日した時にギフトッドユース★スピークアップという場でギフトッドについて話してから、ずっと日本のギフトッドの子供たちと活動したいと熱望。この間、「日本でギフトッドのサマーキャンプやりたい！」と連絡がきた。私は「やってみたらいいさ」と即答。まずは、「なぜサマーキャンプを開催するか」について話し合った。そして、「なぜ、ギフトッドの子供たちが対象なのか」「小学生の子供を対象にしたい」と話すと、「ギフトッドの恐怖」について語りだした。特にギフトッドの子供たちが小学校で湧き上がる感情。

それは「Boredom~退屈感」

ギフトッドの子供たちにとって、これ以上の恐怖はない。

ほとんどの場合、学校で「意味と意義」が見いだせない事をしなくてはならない。ここで間違えてもらいたくないのは、退屈しているギフトッドの子供たちがクラス内で行われている授業を全部理解し、マスターしているわけではないという事。自分の興味のない分野かもしれないし、苦手な分野かもしれない。もしかしたら、学びへの情熱の灯火が消えかかっているのかもしれない。しかし、湧き上がってくるのは学びへの情熱ではなく、退屈感の場合が多い。

ギフトッドの子供たちはどうやって「退屈感」と向き合っているのだろうか。もしかしたら、素晴らしい想像力を駆使して空想にふけているかもしれない。抑えきれないエネルギーのせいで、立ち歩いて、クラス内の面白いものを探しているかもしれない。マシンガントークで、先生に質問を投げつけているかもしれない。

世の中、面白い事は山ほどある。面白い事は創造できる。ただ、枠の外の思考や活動が制限される学校現場では、何をしても意味がないものと感じてしまうかもしれない。そういったギフトッドの子供たちは自らの知的好奇心を探求する事になれていないので、与えられるのを「つまらない」と、待つ事に慣れていくのかもしれない。0から1を作り出すのに恐怖を感じるかもしれない。まだ未知の領域へのチャレンジかもしれないから失敗への恐怖があるのかもしれない。

そういった事を普段感じているギフトッドの子供たちに私たちは、「思う存分にユース時代を楽しんでもらいたい！！』」と思い、ギフトッドサマーキャンプを開催したい。ここで会う子供たちはきっとこのサマーキャンプ外でもつながっていく事だろう。

まったくどうなるかわからないが、ワクワク感はハンパない。

そこで夏季限定劇団員（サマーキャンパー）募集です。

定員：先着10名

年齢：8歳から15歳まで

期間：8月3日から8月7日

活動場所：東京近辺

参加費用：95,000円

詳細はoffice@jagifted.org サマーキャンプ事務局までお問い合わせくださいませ。

